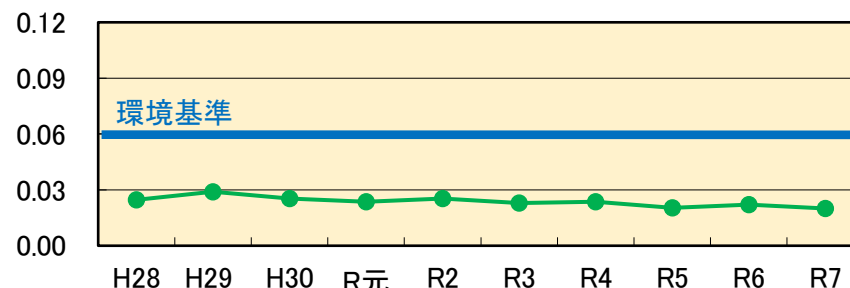


●窒素酸化物

令和7年度の二酸化窒素の測定結果は、環境基準を達成しました。また、経年変化については、ここ10年横ばいで推移しています。

窒素酸化物は、燃料の燃焼に伴い、燃料成分中の窒素や空気中の窒素が酸素と高温下で反応することで発生します。工場および自動車などが主な発生源となり、濃度によっては呼吸器疾患の原因となるほか、光化学スモッグや酸性雨の原因物質となります。

(ppm) 二酸化窒素濃度の経年変化 (一日平均値の98%数値)



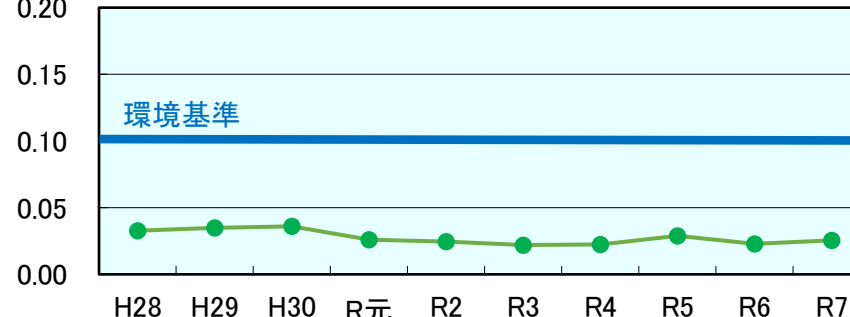
●浮遊粒子状物質 (SPM)

令和7年度の測定結果は、環境基準を達成しました。また、経年変化については、ここ10年横ばいで推移しています。

浮遊粒子状物質は、大気中に浮遊している粒子のうち、粒径10マイクロメートル(μm)以下の物質の総称であり、濃度によっては呼吸器疾患の原因となります。

発生源は、風による土壌粒子の舞い上がりなどの自然現象によるものや、工場などから発生するばい煙・粉じん、自動車や船舶からの排気ガスなどといった人為的なものがあります。

(ppm) 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (一日平均値の2%除外値)

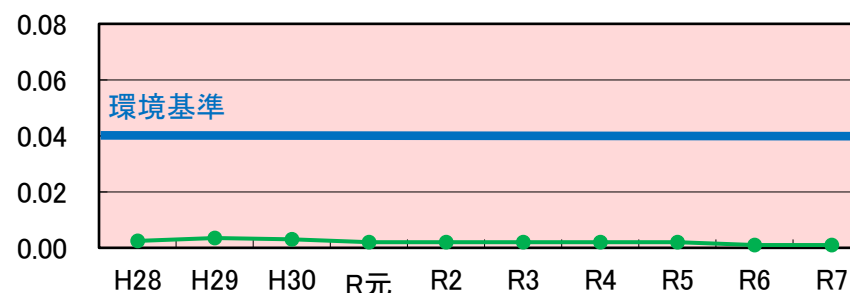


●硫黄酸化物

令和7年度の二酸化硫黄の測定結果は、環境基準を達成しました。また、経年変化については、ここ10年横ばいで推移しています。

硫黄酸化物は、石油などの燃料に含まれる硫黄分が燃焼することで発生します。重油を使用する工場などが主な発生源となり、濃度によっては呼吸器疾患の原因となるほか、酸性雨の原因物質となります。

(ppm) 二酸化硫黄濃度の経年変化 (一日平均値の2%除外値)



※測定結果は確定値です。